

# はじめに



長崎大学理事・副学長  
調 漸  
(事業推進責任者・本部委員会委員長)

「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」がスタートして早くも2年間に過ぎようとしています。長崎県立大学、長崎国際大学と本学の3大学が共同し長崎市、佐世保市、長与町をフィールドとして、医療から福祉に渡る12職能団体の協力を得て多職種連携ができる医療・福祉系の学生を育成するという試みは少しずつですが、着実な歩みを刻んでいます。座学に始まったプログラムも今年度は夏期休暇期間を使った実習も協働で始まっています。

平成26年2月22日に長崎大学で開かれた私たち在宅医療・福祉コンソーシアム長崎主催の第3回長崎県民フォーラムでは実習に参加した経験を医学、薬学、歯学、看護学をそれぞれ学びはじめた学生達が昨年の夏の経験と学びを語ってくれました。2人が1年生、他に2年生1名、3年生1名という構成ながら歯学部学生が全身を理解する歯科医師になりたいと言い、医学生が患者を理解するだけでなく患者を取り巻く家族を理解する医師になりたいと語ってくれました。更に、薬学生は薬剤部や薬局を飛び出て地域を走り回る薬剤師を自らの将来像と照らし合わせていました。看護学生は最も在宅の患者に近い立場で寄り添う自覚とともに、多職種協働の要としての自覚も持ちつつあるように見受けられました。

在宅の患者とその家族からの学びから学生が大きく育ってゆく事実を見せられて、教育現場としての在宅医療・福祉の果たす役割の重要性を教えられている気がします。